

JAしまねびより

2020

8

August
Vol.53

特集 第6回通常総代会



JAグループは積極的にSDGsに取り組んでいます。





2020

JAしまね第6回通常総代会を6月28日(日)、
浜田市の石央文化ホールで開催しました。



新型コロナウイルス感染症対策として、
座席の間隔を空けたステージの様子。

今年で第6回を数える通常総代会は初めて西部地区での開催でしたが、新型コロナウイルス感染症対策のため書面での決議を推奨することとなり、例年に比べると参加人数が大幅に少ない総代会となりました。



石川寿樹 代表理事組合長



議長団 浅日総代 (左) 上田総代 (右)

当日は、総代定数1,000人(欠員22人)に対し、953人(本人出席46人、委任状0人、書面出席907人)の出席。議長団に、浅日進美総代(出雲地区本部)、上田文雄総代(島根おおち地区本部)の両氏を選出し、各地区本部総代から意見、要望が出される中、前年度事業報告、新年度事業計画など全議案が可決承認されました。

石川組合長は「今年度は第2次中期経営計画と第2次農業戦略実践営農計画の第2年目として、引き続き「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の三本柱を基本目標に掲げ、更に自己改革を実践していく。この自己改革を着実に進めていくためには盤石な経営基盤を確立する必要がある、更なる信用共済事業の改革と営農経済事業の改革にも取り組んでいく。特にこの度策定した営農・経済事業改革基本方針に沿って3カ年の計画で改革を進める」とあいさつをしました。

また、昨年退任された役員の皆様について、組織運営の強化ならびに地域に根ざした協同組合の発展へのご尽力に対し、功労者表彰を行いました。

営農・経済事業改革基本方針をまとめた「営農・経済事業改革の取り組み(令和2年度)」はJAしまねホームページにてご覧いただけます。



第6回

通常総代会特集

令和元年度 事業報告

令和元年度は、経済の緩やかな回復や個人消費の持ち直しが続いていました。しかし、夏に相次いだ自然災害、10月の消費税増税、新型コロナウイルス感染症による経済活動抑制等の影響で厳しい状況となっています。

農業情勢では、8月以降の九州北部豪雨、台風15号、19号などによる自然災害が発生し、広範囲にわたって農産物・農業施設等に甚大な被害をもたらしました。また、平成30年9月に発生した豚熱は終息しないまま1府10県まで被害が拡大し、対象地域ではワクチン接種が開始されています。引き続き、災害復興・防疫の取り組みを進めていく必要があります。

国際貿易交渉では、TPP11、日EU-EPAの発効に続き、日米貿易協定が令和2年1月に発効となるなど、関税の削減や撤廃に向けた動きが続いています。

今後、貿易協定による関税引き下げ等が及ぼす農産物輸入や農産物価格等の影響について、引き続き注視していく必要があります。

JAGグループにおいては、令和元年5月末に5年間の農協改革集中推進期間が終了しました。規制改革推進会議答申では、JAGグループの自己改革に一定の評価をしつつ、引き続き農業所得の向上、一層の資材価格引下げ、信用事業の健全な持続性等が課題とされました。

また、最大の懸念事項である准組合員の事業利用規制についても注視



山根盛治 代表理事副組合長

し、持続可能なJA経営基盤の確立・強化、環境変化に対応した事業モデルの転換等により、自己改革を着実に実践していく必要があります。こうした状況の中、令和元年度は、第2次「農業戦略実践3カ年営農計画」の初年度として、県や市町村、関係機関と連携し、営農指導と経営指導を通じた農業所得の増大、農業生産の拡大に向けた取り組みを実施しました。

取り組みの結果、販売品販売・取扱高が386億9,400万円、購買品供給高が320億9,100万円、貯金残高が9,767億6,100万円、貸出金残高が2,864億6,500万円、長期共済保有高が3兆3,136億6,100万円、貸出金残高が2,864億6,500万円、長期共済保有高が3兆3,136億6,100万円、自己資本比率は14.12%と高まりました。

収支面については、事業利益が4億7,400万円、経常利益は19億8,700万円となり、当期剰余金は9億9,200万円となりました。

貯金残高	9,767億6,100万円
貸出金残高	2,864億6,500万円
長期共済保有高	3兆3,136億6,100万円
自己資本比率	14.12%
事業利益	4億7,400万円
経常利益	19億8,700万円
当期剰余金	9億9,200万円



高木賢一 代表理事専務

本総代会にて付議した議案は次のとおりです。

- 第1号議案 令和元年度事業報告及び剰余金処分案について
- 第2号議案 令和2年度事業計画の設定について
- 第3号議案 定款及び定款附属書総代選挙規程の一部変更について(特別決議案)
- 第4号議案 規約の一部変更について
- 第5号議案 農地利用集積円滑化事業規定(くにびき地区本部・出雲地区本部・石見銀山地区本部)の廃止について
- 第6号議案 信用事業規定の一部変更について
- 第7号議案 令和2年度指導事業に要する経費の賦課及び徴収の方法の決定について
- 第8号議案 令和2年度における理事の報酬額の決定について
- 第9号議案 令和2年度における監事の報酬額の決定について



新型コロナウイルス感染症対策として、座席の間隔を空けた会場の様子。

組合員の状況

① 組合員数

(単位：組合員数)

資格区分		前期末	当期増加	当期減少	当期末	
正組合員	個人	64,436	780	2,265	62,951	
	法人	農事組合法人	230	11	4	237
		その他の法人	219	22	10	231
	計	64,885	813	2,279	63,419	
准組合員	個人	163,410	2,868	3,327	162,951	
	農業協同組合	—	—	—	—	
	農事組合法人	23	—	1	22	
	その他の団体	1,836	15	38	1,813	
	計	165,269	2,883	3,366	164,786	
合計		230,154	3,696	5,645	228,205	

② 出資口数

(単位：口)

資格区分		前期末	当期増加	当期減少	当期末	
正組合員	個人	16,485,660	320,494	596,754	16,209,400	
	法人	農事組合法人	26,565	232	189	26,608
		その他の法人	33,635	606	3,896	30,345
	計	16,545,860	321,332	600,839	16,266,353	
准組合員	個人	5,725,981	344,520	239,191	5,831,310	
	農業協同組合	—	—	—	—	
	農事組合法人	2,111	13	18	2,106	
	その他の団体	93,718	773	2,042	92,449	
	計	5,821,810	345,306	241,251	5,925,865	
処分未済持分		145,015	136,195	145,015	136,195	
合計		22,512,685	802,833	987,105	22,328,413	

摘要：(1) 出資一口金額 1,000円
 (2) 当期末払込済出資総額 22,328,413,000円

財務・事務成績の推移

(単位：百万円)

区分	項目	第5事業年度 平成30年度	第6事業年度 令和元年度	
財務	事業利益	1,628	474	
	経常利益	2,594	1,987	
	当期剰余金	1,869	992	
	総資産	1,113,478	1,114,801	
	純資産	79,235	77,103	
信用事業	貯金	977,670	976,761	
	預金	522,005	539,985	
	貸出金	298,851	286,465	
	有価証券	国債	155,212	150,038
		その他	78,123	70,673
		その他	77,088	79,365
共済事業	長期共済保有高	3,438,480	3,313,661	
	短期共済新契約掛金	9,805	9,615	
購買事業	購買品供給高	33,915	32,091	
販売事業	販売品販売・取扱高	37,752	38,694	

(注1) 貯金は譲渡性貯金を含む。
 (注2) 販売品販売高・取扱高は受託販売品と買取販売品の合計

令和元年度(第6事業年度)剰余金処分子案

(単位：円)

1. 当期末処分剰余金	2,164,545,699
2. 剰余金処分数額	1,581,322,100
(1)利益準備金	200,000,000
(2)任意積立金	1,160,000,000
農業振興積立金	200,000,000
農業災害積立金	200,000,000
教育研修充実積立金	150,000,000
信用事業システム開発積立金	200,000,000
BIS規制強化対応積立金	200,000,000
経営安定化積立金	10,000,000
施設等更新積立金	200,000,000
(3)出資配当金	221,322,100
3. 次期繰越剰余金	583,223,599

(注1) 出資配当金は年1.0%の割合です。
 (注2) 次期繰越剰余金には、営農指導、生活・文化改善事業の費用に充てるための繰越額49,624千円と、地区本部業績還元のために繰越額100,000千円が含まれています。

令和元年度 主な事業活動と成果

販売事業

令和元年度は、第2次「農業戦略実践3カ年営農計画」の初年度として、県や市町村、関係機関と連携し、営農指導と経営指導を通じた農業所得の増大、農業生産の拡大に向けた取り組みを実施しました。

米穀は令和元年産の島根県における水稻の作況指数が99（前年103）となり、主食用の収穫量は85,500トンで、前年産比4,600トンの減少となりました。また、元年産米の集荷数量は令和2年3月末現在で35,300トンとなり、出荷契約に対する集荷進度は87.5%、前年対比では91.5%となりました。

園芸

デラウェアは、出荷ピークが当初予定の6月中旬となったことや、県外後続産地や果樹競合他品目の出荷出遅れも重なり、販売単価目標の1,300円/kg（税別）に対し、過去最高の1,327円/kg（税別）となりました。

西条柿は、9月以降の高温・降雨により後期落果や樹上軟果があり、出荷数量は前年を上回ったものの、単価は前年を下回りました。



畜産

雌牛保留や増頭対策を実施し、酪農と連携した和牛子牛の増頭に努めました。酪農は、乳用初妊牛導入等に取り組み、前年を上回る受託販売数量（前年比101.7%）および受託販売額（前年比104.9%）となりました。



資材

肥料・農薬については、品目集約による価格低減を図り、組合員へ還元しました。また、価格低減となる担い手直送超大型規格農薬の普及に取り組みました。

信用

貯金については、総合事業体であるJAの強みを生かし、島根県内の特産品を使用した加工品をプレゼントするキャンペーンを実施し、農畜産物消費拡大、農家所得の向上に取り組みました。貸出金については、担い手農業者の皆様の借入負担軽減に向けた取り組みとして、各農業資金の保証料（島根県農業信用基金協会）を全額助成しました。



共済

担い手経営体や個人農業者に対し、農業経営に関わる様々なリスクへの診断を行う「農業リスク診断活動」に取り組むとともに、「JAしまね子ども倶楽部」を通じた子育て支援や次世代との繋がりづくりに努めました。

また、令和3年3月1日より、地区本部金融共済部を廃止し統括支店に機構改革を行い、一部の業務を本店に移行することで、業務の効率化を図りました。

くらしの活動

豊かでくらしやすい地域づくりのためのふれあい活動に取り組み、食と農、地域とJAを結び取り組みとして、青年組織、女性部をはじめ組合員や地域住民など幅広い参加・参画（アクティブ・メンバーシップ）を促進し、農協運動の活性化に努めました。



令和2年度 事業方針

農業振興

方針

令和2年度は「第2次農業戦略実践3ヵ年営農計画」の第2年度目として、令和3年度目標に掲げた販売高416億円に繋がるよう、初年度の成果と反省を踏まえ、島根農業のモデルとなる経営形態を提案することにより農業戦略を明確にし、多くの組合員がJAに結集することで「農業所得の増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の実現につながる目標の達成に向けて取り組みます。

また、JAしまねがリーダーシップをとり、更に組合員の経営基盤の強化を進め、島根県が目標に掲げた「農業産出額目標730億円」「生産農業所得目標300億円」の目標達成に向け取り組みます。

重点事項

- ① 新規就農者を含む地域の担い手育成
- ② 担い手経営体の経営課題に対応した農業経営管理支援
- ③ JAの総合力を発揮した事業承継支援の実施
- ④ 農作業等の安全・安心対策
- ⑤ 営農指導での生産者貢献

- ⑥ 農業振興支援事業の実施
- ⑦ 「重点推進5品目」の拡大を核とした水田での園芸振興の推進
- ⑧ 主食用米の「きめむすめ」「つや姫」への品種誘導
- ⑨ 島根県産農畜産物の安全安心の取り組み
- ⑩ 担い手の労力軽減の取り組み

全 般

くらしの活動

JAくらしの活動は、豊かなくらし・地域づくりを目的とし、「食と農に關する活動」「地域貢献活動」「支店ふれあい活動」を三本柱に地域活性化の核となる取り組みとしてすすめます。

また、活動を通じて組合員・地域住民など幅広い参加・参画(アクティブ・メンバーシップ)を促進し、農協運動の活性化・地域づくりにより、「食と農を基軸として地域に根差した協同組合」を目指します。

家の光・日本農業新聞等の教育資材を活用するとともに、事業間の連携や役員が一体となった取り組みを展開します。

広報活動では、「JAしまねの良質なイメージ定着化」を広報方針とし、組織的・計画的な取り組みをす

すめ、「食」と「農」、「協同組合」の価値や情報、自己改革をはじめとするJAの諸活動を積極的に発信し、地域農業や協同組合活動に関する情報共有と理解促進に取り組みます。

販売事業

しまねブランド商品として市場や卸に頼らない県産農畜産物の販売の強化に取り組みるとともに、生産基盤の維持・拡大を図るため、「農業戦略実践3ヵ年営農計画」に掲げた「販売を起点としたものづくり」の実現に向け、行動計画を策定し進捗管理を行うことにより、生産現場での営農指導と販売を連携させた実践策を講じます。

購買事業

農家組合員の営農を支え地域農業の振興に資するため、営農指導部門・販売部門・TACと一体となって効率的な購買事業を進め、農家組合員の生産コスト低減と組合員サービスの充実・強化に努めます。

組合員・地域住民の暮らしを支援し、地域の活性化に貢献するとともに、時代の変化・多様なニーズに対応した商品の提供が行えるよう、生活購買事業・店舗購買事業・自動車燃料事業を積極的に取り組み、より

一層のサービスの充実に努めます。

信用事業

総合事業の強みを活かして他業態と差別化した価値を提供しつつ、コスト削減につながる事業見直しにより持続可能な収益構造を構築し、農業・地域から一層必要とされる存在を目指します。

共済事業

組合員・利用者のくらしを守り、農業経営と地域社会に貢献する活動を展開するため、地域密着の事業活動である3Q訪問活動を通じて「ひと・いえ・くるま」の総合保障の提供及び「農業リスク診断活動」を実践し、一層の「信頼」を高めるとともに、次世代・次々世代など新たなJAファン(理解者)づくりにより事業基盤の維持・拡大を図ります。

また、高位均質で満足度の高いサービスの提供、適正・迅速かつ効率的な事務処理の実施及びJalnet's(※1)の全面活用により事業の効率化・機能強化を図り組合員・利用者ニーズに応えます。

※1 「Jalnet's(ラフレツ)」とは、保障のご提案や共済契約のお申込みをペーパーレスで行うことができる携帯用タブレット端末の呼称。

功労者表彰名簿 〈令和元年6月退任の皆様〉

役員への就任以来、組織運営の強化ならびに地域に根ざした協同組合の発展に寄与された功績を讃え、功労者表彰を行いました。

表彰者名	在任時の役職	選出地区等	表彰者名	在任時の役職	選出地区等
竹下正幸	(代表理事組合長)	石見銀山	福田賢治	(理事)	雲出
金本力忍	(常務理事)	本店	池田忠宏	(理事)	雲出
坂本正人	(常務理事)	本店	石飛藤由美	(理事)	雲出
新井田満司	(常務理事)	本店	山根剛人※1	(理事)	雲出
上加藤樹	(常務理事本部長)	雲南	多々寄利行	(理事)	斐川
井上宗治	(常務理事本部長)	いわみ中央	片星野尊史	(理事)	斐川
川上悟司	(常務理事副本部長)	くにびき	坂根重治※2	(理事)	石見銀山
上田幸敏	(常務理事副本部長)	雲南	下垣忠文	(理事)	島根おおち
上金阪知保	(常務理事副本部長)	隠岐	森田誠和	(理事)	いわみ中央
清水雅美	(常務理事副本部長)	隠岐とうぜん	安井友行	(理事)	いわみ中央
吉田博幸	(常務理事副本部長)	出雲	山根哲朗	(理事)	西いわみ
岩佐重信	(常務理事副本部長)	石見銀山	小石木貴マスエ	(理事)	西いわみ
小西圭二	(常務理事副本部長)	島根おおち	池田浦谷	(理事)	本店(青年)
石橋敦至	(理事)	くにびき	徳松黒恩	(理事)	本店(女性)
池周藤近	(理事)	くにびき	岡青木	(理事)	
秋間敬夫	(理事)	やすぎ			
高橋正和	(理事)	雲南			
早川山莊	(理事)	雲南			
景飯一	(理事)	雲出			

※1 平成31年1月31日退任 ※2 平成30年3月31日退任

第6回総代会



Q 地区本部で行われた総代説明会で、最低でも1%程度の出資配当ができるよう努めると回答があった。今後も努力していただきたい。

A 令和元年度については成果を残すことができませんでしたが、経営状況は非常に厳しくなっています。出資配当がきちんとできるよう、特に信用共済事業と営農経済事業の改革に取り組み、総代や理事の皆さんと相談しながら健全経営に向けて努力して参ります。

Q JAも他の金融機関同様に、どんどん店舗を縮小していくのか。将来について大変不安を持っている。

A 信用事業の収益が厳しくなっており、組合員へのサービスをいかに効率的にやっていくかを考えています。出来る限り店舗を残したいですが、見直しをしなければ全体の収支が厳しくなります。店舗のあり方については、本店と地区本部とで重々に議論をして結論を出していきます。

Q 販売事業の米について、2段階での買取手法とはどのようなものであるか、その成果をお聞きしたい。

A 令和元年産の場合でいうと、6月末までは共同計算で集約し、6月末段階での在庫分については、その時点の価格で一括JAが買い取って早期に全体を精算するというシステムです。2段階での買取手法について、生産者の皆様に1円たりともロスの無いような手法に変えたことで成果は出ていると思っています。

Q 購買事業の生産資材について肥料や農薬の価格が下がったとは感じない。流通面での改革が必要なのではないのか。

A データを取ると、決して農協が全体的に高いわけではなく、農協の方が安い品物も多くあるというデータも出ています。今後も他業者の価格動向の調査を続けながら、価格引下げの努力を続けていきます。また、物流の問題等も避けては通れない課題です。店舗のデジタル化等のシステム導入も検討しながら、皆さんの期待に沿えるよう努力して参ります。

このほかにも幅広くご意見をいただきました。





隠岐女性部

隠岐女性部は、平成29年4月23日をもって活動を休止していましたが、昨年の5月27日の総会を経て部員7名により活動を再スタートしました。始まったばかりということもあり、今後の活動のためにまずは現在の部員同士の親睦を深めることを第1の目的とし、第2の目的として新たな部員の加入を目標に掲げ活動しています。

昨年は島外視察・研修を行い、その中でくにびきの女性部員さんが活動をしておられる加工施設を見学させていただきました。くにびき女性部の活動の一部について知るとともに、視察・研修全体を通して親睦を深めることもできました。

今年度は活動自粛ということもあり、今のところまだ活動はできていませんが、対策をしっかりと行い、今できることを部員の皆さんと考え取り組んでいきます。



一所懸命青年連盟



JA YOUTH

もりおか
盛岡

わたる
涉さん

JAしまねやすぎ青年連盟

大阪府から1ターンしてきた盛岡涉さん(31)は、安来市広瀬町西比田で就農して2年目になります。子供の頃から植物が好きでそこから農業に興味をもち、大学生の時に経験した農作業の住み込みのアルバイトをきっかけに、農業を生涯の仕事にしたいと決めたそうです。大学卒業後は一旦就職し、働きながら就農地を探していたところ、有機栽培に取り組む安来市が気になり、地域おこし協力隊制度を活用して移住を決められました。

現在は、メロンをハウス3棟とミディトマトをハウス1棟栽培し、水稻育苗やドローン防除等の受託作業も行っています。今は8~9月にかけて出荷するメロンの管理に奮闘しており「品質・収量に未だ課題があるので、それをクリアするのが目標」と日々頑張っています。

農青連には研修先の方に「他の農家とのつながりができるから入ってみたいか?」と誘われて加盟し、地区の文化祭等に仲間と参加しています。今後の抱負として「農青連はいろいろな方と関わりがもてるので、お互いの強みを活かし、消費者の皆さんへ良い物を届けたい」と話してくれました。



あなたもチャレンジ 家庭菜園

エンドウ

マメ科の連作に注意

エンドウには若いさやを食べるサヤエンドウ、実が大きくなり、みずみずしいさやのスナップエンドウ、そして若く充実した豆を取る実取りエンドウがあり、それぞれ目的に応じた品種を使います。



園芸研究者 ● 成松次郎

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

品 種 サヤエンドウでは、「ニムラ白花きぬさや」（みかど協和）、「砂糖エンドウ白星」（松永種苗）など、スナップエンドウでは、「ニムラサラダスナップ」（みかど協和）、「スナック753」（サカタのタネ）などがあります。

畑の準備 マメ科野菜は、同一の畑で連作すると生育障害が出やすく、4～5年はマメ科を入れていない畑を選びましょう。種まき2週間前に畑1平方m当たり苦土石灰100gを全面に施し、土とよく混ぜておきます。次に、1週間前に畝幅120cmを取り、深さ20cmの溝を掘り、この溝1m当たり化成肥料（NPK各成分で10%）100gと堆肥1kgを入れ、土とよく混ぜて幅40～50cmの畝を作ります（図1・2）。

図1 畑の準備1

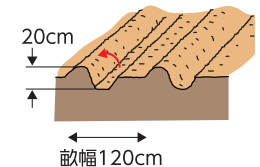
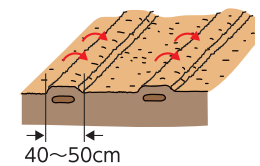
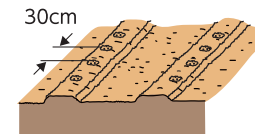


図2 畑の準備2



種まき 一般地では10月中旬～11月上旬が適期で、早まきして年内に生育が進み過ぎないことが大切です。じかまきでは、株間30cm程度、1カ所4～5粒をまきます（図3）。発芽の頃に鳥害を受けやすいため、不織布をべた掛けして保護します。発芽がそろったら2本を残し、他は間引きます。なお、小さなポットで育苗して、本葉2枚の頃、畑に植え付けることもできます。

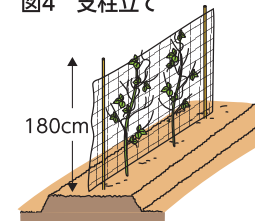
図3 種まき



追 肥 春先に生育の勢いが良くなり始めた頃と開花始め頃にそれぞれ化成肥料を畝1m当たり10g程度、スナップエンドウ、実取りエンドウではさらにさやの肥大期にも同様に追肥します。追肥後は株元に土寄せをしておきます。

支柱立て 早春から生育が盛んになり、つるあり種ではつるを絡ませるため支柱を立てネットを張ります（図4）。

図4 支柱立て



病害虫の防除 さやができる頃からハモグリバエが多発しますので、マラソン乳剤などを使用基準に従って防除します。うどんこ病には、カリグリーンなどの農薬で予防します。

収 穫 サヤエンドウは、子実の肥大が始まる頃で、開花後15日前後、スナップエンドウはさやが鮮緑色で豆が肥大して断面が円形となる開花後25日前後です。

健康 散歩

けんこうさんぽ



JA島根厚生連

お口の中を健康に

口の中（以下、口腔と称す）の状態は、全身の健康を保つためにとても重要な指針となります。特に、健康寿命と口腔には密接な関係があると言われています。

健康寿命とは、日常で介護を必要とせずに自立した生活のできる期間を指します。

厚労省も、運動や食習慣などを改善することで、健康寿命を延ばす事ができると提言しています。しかし、高齢になると、どうしても認知症や寝たきりといった問題が生じます。この問題に口や歯の健康が深く関わってくるといいます。又、様々な研究で、脳卒中や心臓病、糖尿病などの発症と悪化にも関わっており、自分の歯がたくさん残っていると、全身疾患のリスクが低く、長生きになるというデータも報告されています。

口の中のケア（以下、口腔ケアと称す）は虫歯や歯周病の予防だけでなく、唾液の分泌、口臭の予防、ひいては誤嚥性肺炎の予防をする効果も期待できます。口腔内の状態によって病気や不調を改善できると言われ、中でも、歯を失うと、発音の低下や筋肉の偏りによる肩凝りや頭痛など、急に身体に様々な症状が出たり、生活習慣病の発症率が高くなったりするといわれています。このようなことから、健康を守るため口腔ケアは大切なケアの1つです。

いつも行っている歯磨きやうがいに加え、①顔の表情を作る筋肉や、口の周りの筋肉を鍛える。②舌の運動をする。③唾液腺のマッサージで唾液の分泌をスムーズにする。といった嚥下体操も取り入れた口腔ケアもお勧めします。

歯の健康と、口腔機能の維持・健康で食生活に変化をつけて健康寿命を延ばしていきましょう。



令和2年度 くにびき地区本部 総代説明会開催

くにびき地区本部総代説明会を6月20日、営農総合センターで開催しました。令和元年度の事業報告のほか、令和2年度の事業計画、基本方針など主な内容について報告します。



当日の様子

当日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、人数を削減して開催。総代数140名のうち、各ブロックの総代長や副総代長など14名が出席しました。冒頭、出席者全員でJA綱領を唱和した後、JAしまねの高木賢一専務が「令和2年度の総代会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から規模を縮小するため、書面決議での開催となり、ご迷惑をお掛けする。コロナ禍でさまざまな農産物や花き、畜産に影響が出ているため、できる限りの支援をしていきたい。令和元年度は、運営体制改革を実施し、7月から新たな役員体制のもと、自己改革や統合効果を示した。令和2年度も引き続き、厳しい情勢は続くが目標に向け、役員員一体となり、取り組んでいく。盤石な経営基盤の確立を通じ、組合員のニーズにこたえられるよう、各部門で改革をしていく」と挨拶しました。

続いて、栗原令本部長が「本来、総代説明会には多数の方にお出掛けいただき、意見を交換すべきだが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から人数を削減した形での開催となったことを、ご承知おきいただきたい。また、緊急事態宣言発令時には、一部支店の窓口を休業し、組合員や利用者の皆様にはご不便をおかけしたが、ご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。令和元年度は3つの基本目標を掲げ、計画を上回る経営実績をあげることができた。令和2年度も厳しい農業情勢、金融経済情勢が予想されるが、JAでは今後、持続的な経営をするために、3月1日に機構改革を実施した。農業振興や地域の暮らしを支えるため、さらに経営改革を続け、皆様に不便やサービス低下を感じさせないよう取り組んでいく」と、今後の意気込みを語りました。

その後、議事に入り、JAしまねとくにびき地区本部の令和元年度の事業報告、新年度の事業計画などについて説明し、出席者から意見、要望が出されました。（14ページ参照）

こうした意見や要望を踏まえ、くにびき地区本部が組合員の皆様から信頼され満足されるよう、今後も役員一同協力して事業運営にあたつて参ります。

くにびき地区本部の概況

令和元年度事業実績（平成31年4月1日から令和2年3月31日まで）

（単位：千円）

科目	金額	科目	金額
事業総利益	3,583,074	事業利益	89,820
信用事業総利益	1,384,412	事業外利益	266,294
共済事業総利益	1,159,654	事業外費用	49,448
購買事業総利益	446,913	経常利益	306,667
販売事業総利益	114,871	特別利益	3,287
保管事業総利益	17,722	特別損失	184,017
加工事業総利益	11,568	税引前当期利益	125,937
利用事業総利益	116,741	法人税・住民税等	46,781
葬祭事業総利益	262,934	当期剰余金	79,155
宅地等供給事業総利益	12,879		
その他事業総利益	76,663		
指導事業収支差額	▲21,286		
事業管理費	3,493,254		

※本店配賦を含む。

くにびき地区本部 組合員数（令和2年3月31日現在）

（単位：人、団体、戸）

正組合員			准組合員			合計	戸数		
個人	法人・団体	合計	個人	法人・団体	合計		正組合員	准組合員	合計
9,860	33	9,893	29,295	129	29,424	39,317	7,668	22,383	30,051

くにびき地区本部 役職員の状況（令和2年3月31日現在）

（単位：人）

役員		合計	職員				合計
常勤理事	非常勤理事		総合職	専門職	一般職	(うち営農指導員)	
2	3	5	242	31	25	26	298



高木専務



栗原本部長

令和元年度 事業報告

平成31年4月1日
～令和2年3月31日



カボチャ出荷検討会（7月2日 中海干拓研修センター）



（株）干し柿GI登録報告会（12月10日 島根県庁）

加工

- 雲州人参一出荷量は77.6kg（前年度147kg）となりました。
- 茶一茶工場取扱量は、一番茶、秋番茶の総計が24.2t（前年度28.8t）となりました。

利用

- 育苗一水稲苗は、91,073箱（前年度98,673箱）、野菜苗は、15,113トレイ（前年度16,616トレイ）となりました。
- 米穀乾燥調製施設一カントリーエレベーター「稲蔵」1,127t、鹿島ライスセンター178t、南ライスセンター393tの処理実績となりました。
- 無人ヘリ防除一水稲の防除面積は、321.5ha（前年度341.8ha）の散布実績となりました。

購買

- 生産資材一生産資材低減対策の一環として、令和2年産水稲資材予約価格について、統一品目を設定し、安価に提供できるように価格を設定し、統合メリットの創出に取り組みました。また、担い手を対象に、超大型規格や低コスト農薬などニーズに即した資材提供に努めました。
- 農業機械一農家訪問活動の強化を図り、組合員サービスの向上と農機担当者のレベルアップに努めました。また、低コストにつながる「共同購入トラクタ」の提案を行いました。

葬祭

- 葬儀施行件数は613件（前年度624件）となり、うち虹のホールの会館利用は439件、会館利用率71.6%（前年度442件、70.8%）となりました。

生活

区分	令和元年度実績	備考
自動車	339,076千円	車両販売308,844千円、整備部品30,231千円他
LPガス	271,754千円	供給254,702千円、ガス器具17,052千円
生活資材	85,061千円	シロアリ工事52,474千円、テレフォンショップ25,828千円、ムスイ他6,759千円
合計	695,891千円	

営農指導・販売

- や産直への出荷方法等についての講義を行い、14名が受講しました。
- 産直店舗での試食販売、季節のイベント開催等、集客数と販売高の増加に取り組み、販売高は、670,039千円（前年度658,928千円）となりました。
- 水稲一5月の少雨により藻類が多発し田植え後、活着が遅れる圃場が目立ちました。梅雨明け後には平均気温が平年より1～2℃高く推移したことから「ハナエチゼン」「コシヒカリ」は心白・腹白等が増加し品質低下に影響を及ぼしました。一方、高温登熟成に優れている「つや姫」、中生品種の「きぬむすめ」は1等米比率が高く、全品種の1等米比率は平均52.2%と前年（39.8%）よりも高くなりました。
- 野菜一「かぼちゃ、馬鈴薯」を重要推進品目と位置づけ、作付拡大に取り組み、生産者45名、栽培面積4.7haとなりました。
- 西条柿一着果数は平年並みで、順調な生育となり、「こづち」は36.8t（前年度25.3t）と出荷量が増加しました。「◎ほし柿」は岡山市場、「あんぼ柿」は広島市場を中心に出荷しました。東出雲町特産「◎ほし柿」がGI（地理的表示保護制度）に島根県産品として初めて、登録されました。
- 牡丹一牡丹鉢花について開花調整期間は順調に生育し、消費者需要に対応する数量を確保する事ができ、出荷量は5,412鉢（前年度5,688鉢）となりました。
- そば一8月下旬以降に降雨が続き、発芽不良、湿害が多発しましたが、収量は50t（前年度42t）となりました。
- 畜産一子牛出荷頭数は153頭（前年度160頭）と減少し、販売高は110,358千円（前年度115,271千円）となりました。生乳販売は466tで57,955千円（前年度79,702千円）、鶏卵は36,691千円（前年度37,510千円）となりました。



さんちよく営農塾講座（4月4日 中海干拓地）

主な農産物販売高

米	841百万円
野菜	978百万円
果樹	71百万円
畜産物	241百万円

- JAしまね農業振興支援事業により、「新規就農者等育成支援リースハウス事業」を実施し、揖屋干拓地にリースハウス5棟（ミニトマト）を設置し、園芸産地の育成と新規就農者等の育成・確保に向けた取り組みをすすめました。
- 担い手サポートセンターを中心に農事組合法人・集落営農組織の組織強化のための支援を行い、農業法人2組織が設立されました。今年度から「新規就農支援係」を新たに設置し、新規就農者の育成・確保並びに経営の安定化に向け、行政と連携し支援に取り組みました。
- 「経営安定対策」の円滑な事業実施に向け、申請手続きの支援等に積極的に取り組み、水田活用の直接支払交付金交付申請件数が436件、畑作物の直接支払交付金交付申請件数が36件となりました。
- 令和元年産米は、業績還元資金による「きぬむすめ」への出荷奨励や、座談会・指導会での推進により、「コシヒカリ」から「きぬむすめ」「つや姫」への品種転換に取り組みしましたが、出荷実績は「きぬむすめ」が1,155.1t（前年度1,267.0t）、「つや姫」が586.4t（前年度763.0t）となりました。「コシヒカリ」については76.1t（前年度97.6t）となりました。
- 新規産直会員育成を目的とした「さんちよく営農塾」を開講。野菜栽培技術

保管

- 米の集荷・検査買入数量は、下佐陀倉庫1,632t、ライスターミナル「米蔵」1,186tの実績となりました。



サンサン女子大講座
(5月11日 鹿島町茶畑)



カーブミラー寄贈
(9月24日 松江市役所)



子育て応援イベント
(11月30日 くにびき地区本部)

- 女性部—教育文化センター San・san 館を活用して「食」と「農」をテーマとした活動を進めました。また、広報誌での「松江に伝わるふるさと料理」の紹介や毎月開催している「サンサン料理教室」へレシピの提案と講師を務めました。
- 女性大学—文化・教養等幅広い講座を実施し、第6期生48名、卒業生会67名となり、相互交流とJA理解を深めました。
- 広報—広報誌「JAしまねびより」やホームページ等により広報活動を展開しました。
- 教育文化活動—協同組合の理解促進を深めるため、「家の光三誌(家の光・ちゃぐりん・地上)」「日本農業新聞」など教育資料の普及拡大に取り組みました。組合員・地域住民との絆づくりの一環として「支店だより」を全支店が発行し、より身近な情報発信に取り組みました。
- くらしの活動—◆ふれあい活動を進めるとともに、支店運営委員会を中心に地域交流とふれあいの場の創出に取り組みました。◆キッズサッカー大会、家庭婦人バレーボール大会を主催し、スポーツ活動支援を行いました。◆パートナーセンター(結婚相談所)による婚活支援を行いました。◆地域貢献・地域活性化に取り組みグループ・団体等の多様な取り組みを表彰(2団体)および普及支援(4団体)しました。
- 健康管理活動—◆JA 島根厚生連や行政と連携し「特定健診」や「腹部超音波検査」「大腸がん検診」「胸部CT検診」を実施。また、農業法人会会員を中心に、「担い手人間ドック」に取り組んだ他、女性部員を対象とした「乳がん検診」を実施し、「女性部健診」を開始しました。◆「第7回JAしまねくにびきだんだん健康ウォーク大会」を開催し、119名が参加しました。

福祉

- 令和元年8月末に「短期入所生活介護(ショートステイ)」を、残りの「訪問介護(ヘルパーステーション)」「通所介護(デイサービス)」「居宅介護支援(介護相談センター)」は、令和2年2月末をもって廃止となりました。

- 自動車共済の新規獲得および保障内容充実に向け、スマイルサポーター・ライフアドバイザー・安心サポーターの連携強化による取り組みを実施。最高水準保障のクルママスター占有率は26.1%、契約件数は21,427件(前年比99.2%)となりました。
- 魅力あるJA共済の普及に取り組み、長期共済推進目標ポイント8,000,000Pに対し実績ポイント8,989,711Pと達成し、普及拡大に努めました。
- 交通安全反射材・カーブミラー贈呈、交通安全教室の開催、JAカップ学童野球協賛など地域貢献活動を行いました。

経営・管理

- 「第2次中期経営計画」実践1年目にあたり、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」の確立に向け、くにびき地区本部における重点実施事項についての進捗管理に取り組みました。
- 「自己改革」を確実に推し進めるため、「信用・共済事業体制及びふれあい店・中原店の見直し」「移動金融購買車の見直し」「営農指導体制及びグリーンショップ運営体制の見直し」「福祉事業の廃止及び生活福祉部の見直し」「総務管理部門の体制の見直し」として機構改革を実施し、「持続可能な経営基盤の確立」に向けて「経営改革」に取り組みました。
- 「JAしまね総合ポイントカード(おさいふカード)」については、窓口・店頭等において積極的な加入促進に努め、組合員数に対する加入率は97.3%となりました。
- 「組合員加入促進運動」を展開し、資格変更を含め正組合員105名、准組合員588名が加入しました。
- コンプライアンス・プログラムに基づく行動計画を策定し、年間を通じてその具体的実践を行い、コンプライアンス遵守・不祥事未然防止の強化に取り組みました。

組織・広報・くらしの活動

- 農政会議—関係団体と連携した行政との懇談会を開催し、農業施策等の要望・意見交換を行いました。
- 青年連盟—育英北幼稚園との食農教育・農業体験や地域住民との「ふれあい親子いもほり大会」を開催するとともに、松江市農林水産祭など各種イベントへの参加により、農業理解促進に取り組みました。

資産管理

- 組合員の資産管理および高齢化対策並びに次世代対策として、資産相談センターにおいて相続を中心とした相談業務に取り組み177件の相談に対応しました。

信用

- 個人貯金獲得の取り組みとして、各種貯金キャンペーンを活用し、精力的に実施しました。
- 貯金残高1,344億13百万円(計画対比105.4%)。平均残高1,349億82百万円。
- 農業資金の取り組みとして、TACとの連携強化を図り、低利で利用しやすい資金の提供に努めました。新規貸出実績148,779千円。
- 個人貸出金については、「魅力ある金利」を提案可能とした「子育て応援宣言」を引き続き実施しました。また、JAしまね統一開催の休日ローン相談会を実施(年4回)しました。
- 貸出金残高480億40百万円(計画対比102.2%)。平均残高479億43百万円。
- 組合員・利用者の生活向上を目指すため、資産形成・資産運用をサポートする取り組みを行いました。
- 年金新規指定口座獲得のため受給権が発生する方への訪問や、JA以外の受給者へ向けた年金指定替え訪問を実施しました。年金受給者数14,179名。
- 「子育て応援イベント」として、子育て世帯に農業体験や収穫した農産物を使用した食事会を実施しました。

共済

長期共済の主な支払状況

内容	金額	件数
死亡共済金	76,066万円	204件
入通院共済金	40,022万円	3,250件
火災・自然災害共済金	15,866万円	361件

傷害共済は779件で6,247万円の支払いがありました。

- 「3Q訪問活動(あんしんチェック)」を実施し、組合員世帯の約61.9%にあたる13,872世帯のフォロー訪問活動を行いました。
- 長期共済期末保有高は5,671億円(前年比96.3%)。

基本方針

引き続き、経営改革を実施することで、地域農業生産基盤を維持していくとともに、担い手の育成支援と農業振興をすすめ、「農業者の所得増大・農業生産の拡大・地域の活性化」を柱とした「JA自己改革」の実現と、「持続可能な経営基盤の確立」に向けて、役職員一丸となって取り組んでまいります。また、「第2次中期経営計画」と「農業戦略実践3か年計画」の第2年度として、地区本部重点実施事項を主体に各事業総力を挙げて取り組み、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」の確立を目指します。

令和2年度 事業計画

令和2年4月1日
～令和3年3月31日

組合員とともに農業・地域の未来を拓く

JAしまねのめざす姿

1. 消費者の信頼に応え、安全で安心な国産農畜産物を持続的・安定的に供給できる地域農業を支え、農業者の所得増大を支える姿。
2. 総合事業を通じて地域の生活インフラ機能の一翼を担い、協同の力で豊かでくらしやすい地域社会の実現に貢献している姿。
3. 次世代とともに「食と農を基軸として地域に根差した協同組合」として、存立している姿。



主な重点実施事項

<営農・農業振興>

- ① 地域農業を支える多様な担い手の育成と支援
- ② 良質米生産の推進と結びつきを強化する販売対策
- ③ 水田フル活用による農家所得向上と多様なニーズに対応した生産体制の強化
- ④ 園芸産地の育成・拡大と販売対策
- ⑤ 優良雌牛保留対策等の継続的な事業活用による更新・増頭対策
- ⑥ 産直振興による地産地消の推進
- ⑦ 農業所得向上を目指した営農指導体制の強化
- ⑧ 生産コストの低減
- ⑨ 農畜産物の安全・安心への取り組み

<くらしの活動>

- ① 食農教育、農業体験教室、料理教室、地産地消等への取り組みによる「農」と「食」の理解促進
- ② 家の光三誌等の活用を通じた教育文化活動や生きがいの場づくりの創出の展開
- ③ 女性組織、青年組織等の組織活動の活性化及びJA女性大学等の充実

- ④ 支店等を拠点としたふれあい活動の展開による組合員のメンバーシップの強化と地域貢献活動への取り組み

- ⑤ 地域のライフラインの一翼を担う地域貢献における役割発揮

- ⑥ 生活購買事業の取り組み

- ⑦ 資産管理事業・相続相談の取り組み

- ⑧ 葬祭事業の取り組み

<信用事業>

- ① 農業メインバンク機能の強化

- ② 生活メインバンク機能の強化

- ③ 組合員・利用者接点の再構築

<共済事業>

- ① 強固な事業基盤の確保と次世代対策の強化

- ② 均質な利用者サービスの実践による利用者満足度の向上

- ③ 身近で親切なサービスの提供と迅速・適正な自動車損害調査体制の実現

<地区本部運営>

- ① 組織基盤強化

- ② 経営基盤強化

- ③ 協同組合としての意識改革と人材育成

総代説明会 Q & A



桑谷充男総代長



佐藤真治副総代長



石川廣副総代長



村上幸可副総代長



伊原幸俊総代長

(松江南) 村上幸可副総代長
 (1)ふれあい店が閉店となり、ATMのみ残っているが、ATM利用者の安全性を考えてほしい。
 (2)無人化になったふれあい店、遊休資産について今後どのように考えているか。

地区本部
 (1)当地区本部として、米の受委託販売は10万袋を切っています。その背景には、担い手へのシフトや米卸業者との競争が理由と考えられます。今後は、JA共販と地元米卸業者への直接販売も検討し、組合員の手取りアップに繋げていこうと思います。
 (2)キャベツについては、干拓のキャベツ部会を通して、販売高1億円の品目として維持していきます。タマネギについては、圃場整備を進めている新庄地区で、高収益作物としての位置づけで拡大することを進めています。ミニトマトは、リースハウス事業を活用し、新設ハウスでの取り組みを進めています。
 (3)産直については、目標販売額7億円に向かって、いかに伸ばすか、管内の組合員の販売高を伸ばすことを検討します。市場を通さないものについては、少量多品目として、Aコープ、みしまやのインショップへの出荷など、生産指導を充実して販売に繋げるよう努めます。

(宍道玉湯) 伊原幸俊総代長
 (1)米穀の販売事業についての状況と、更に今後情勢が厳しくなっていく中、くまびき地区本部としてどのように取り組んでいくか伺いたい。
 (2)重点推進5品目について、販売と生産振興の考えをお聞かせ願いたい。
 (3)中央卸売市場が厳しい状態にある。青果の直接販売をどのように考えているか。また、全農と卸市場との関係をどのように考えるか。

(宍道玉湯) 石川廣副総代長
 グリーンショップの営業時間短縮に伴い15時に閉店となった。組合員より営業時間を延長してほしいとの要望があった。

地区本部
 (1)旧ふれあい店の安全性については、店舗、ATMは警備がかかっています。利用者の安全性については今後検討します。
 (2)地域の要望により、組合員の生活及び地域の活性化に貢献し、JAの事業展開の目的に沿い、営利を目的としない利用とします。
 (3)農地賃借については、農地利用集積円滑化事業規定が廃止となり、農地中間管理機構への移行をすることとなります。人・農地プランの実質化を農業委員会と一緒に検討していきたいと思えます。
 有害鳥獣については、JA(TAC職員)が免許をとり、対応もしています。松江市と連携し、JAとして何ができるか進めていきます。
 棚田については、3月に「食料農業農村基本計画」が新たに改定されました。5年前は、担い手をメインとしていたが、半農半Xなども含む多様な農業経営体と地域を支える重要な経営体を示されました。国・県・市と連携し、JAが地域と一緒に、信頼した組織となるよう取り組みをしていきたいと思えます。

(3)農業を続けていくのに、中山間地域での生産性がとれない。作業委託、農地賃借がうまくいっていない。
 有害鳥獣については、3年前までは総代会資料に記載があったが、現在は無い。全部、行政に任せているのか。
 棚田の助成金についても、検討してもらえないか。

地区本部
 昨年計画した中期経営計画3カ年のスケジュールを基に実施したいと考えています。今後のことについては、ご相談をしながらサービス低下に繋がらないように実施していきます。

地区本部
(鹿島島根) 桑谷充男総代長
 組織改革について、いつまでどのよう改革するか。毎年の改革は組合員、職員に影響がある。方向性を示し、中長期的に計画を立てて実施すべきだ。改革をすることにより、組合員離れのおそれがある。組合員離れが起きる改革は改革ではない。そうならないよう、もっと地域の声を聞いて検討すべきだ。
地区本部
(東出雲八雲) 佐藤真治副総代長
 「営農経済事業改革の取り組み」※の19の施策16番目にある、大型機械は特殊免許が必要なため、講習会を実施してほしい。※JAしまねのホームページで、ご覧いただけます。

地区本部
 組合員からの要望は承知しています。グリーン・グリーンショップの赤字は約1億円あり、長時間営業しても利用者の増加は見込めないと考えられます。農繁期については、休業なしでの対応をしています。
 時間を短縮しても、利用者の満足がいかに対応を心掛けていきます。

農業者の所得増大・農業生産の拡大に向けて取り組んでいます。

～くにびき地区本部の取り組み～

良質米生産へ無人ヘリで防除実施 省力化・低コスト化を目指す！

くにびき地区本部は、無人ヘリコプターを使用した防除を各地で行い、農業における省力化や低コスト化に取り組んでいます。



無人ヘリで薬剤を散布するオペレーター

無人ヘリを使用した防除は、高齢化や担い手不足が進むなか、少人数で適量の薬剤を広範囲に散布することが可能。また、遠隔操作で周辺への薬剤飛散が少ないため、安全性が高いのも特徴です。7月17日には、当地区本部の営農指導員立ち会いのもと、オペレーターが無人ヘリを操縦し、八雲町に広がる約12haの水田で防除を実施。薬剤16ℓが入ったタンクを搭載した無人ヘリで、均等に適量の薬剤を散布していきましました。



散布の様子

防除に立ち会った安部恭久営農指導員は「今後も労力軽減やコストの削減をしながら、良質米を生産できるように、取り組んでいきたい」と話しました。八雲町のほか、各地域で2回ずつ防除を行う予定です。

松江市認定農業者協議会 補助事業研修会を開催

松江市認定農業者協議会は7月1日、当地区本部の営農総合センターで補助事業研修会を開催し、認定農業者や関係者など44名が出席しました。



挨拶する竹谷会長

同研修会は、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける農業者への支援策として、農林水産省による補助事業が示されたことを受け、各事業の概要について学び、有効に活用してもらうと実施。冒頭、同協議会の竹谷修一会長が「生産者は、コロナ禍で少なからず影響を受けている。各事業について学び、今後の経営に役立ててほしい」と挨拶しました。続いて、松江地域農業再生協議会と当地区本部の担当者、「高収益作物次期作支援交付金」と「経営継続補助金」について説明しました。



説明会の様子

出席者は「事業について学べる機会はあるがたい。市やJAが窓口となっていて、手続きの支援をもらえるとのことなので、ぜひ活用したい」と話しました。

農機センターからのお知らせ

ニッポン農業応援

West Japan LIMITED (GS232LJY5/GS252JY5)



西日本限定トラクタ登場

期間限定企画 農家の皆様のお悩みを解決！ 装備も特別！ 価格も特別！

(農耕トラクタに関わる道路運送車両法運用見直し対応)

□公道走行について (小型特殊免許・自動車免許は必要です)

●その1 (安心)

GS232LJY5/GS252JY5は小型特殊自動車なので、大特免許不要 制限事項対応済み・反射器 (白/赤) 標識 (▽) の貼付

●その2 (安心)

左右の大型ミラー装備により、すでにお持ちのトラクタ作業機を (ハロー等) 装着の場合も本機側制限事項対応済み (大型特殊免許必要)

●その3 (提案)

『代播きを効率よく作業がしたい…』 そんなご要望にはこれ！

GSトラクタとウイングハロー (ニプロWCS10) の組合せて 大特免許不要



WCS2010 (作業幅199cm)
WCS2210 (作業幅219cm)
WCS2410 (作業幅239cm)

お問い合わせは くにびき地区本部農機センター TEL: 55-3066



組合員のアクティブメンバーシップ確立に向けて取り組んでいます。

～くにびき地区本部の取り組み～

サンサン女子大 営農体験学習実施 トウモロコシの収穫に大満足！

くにびきサンサン女子大は7月23日、中海干拓地にある奥名昭一さんの圃場で「トウモロコシ栽培講座（収穫）」を開催し、学生32名が参加しました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、5月に予定していた「トウモロコシ栽培講座（種まき）」が中止となりましたが、奥名さんによる種まき、日々の管理で収穫の日を迎えることができました。



挨拶する奥名さん

当日、学生たちは雨が降るなか、約100mの畝4列に1・6m近くまで成長し、葉の生茂った幹から、次々とトウモロコシの実をもぎ取っていました。

学生は「収穫だけでも一苦労だった。生産者の苦労がわかり、今までよりも感謝して農作物を食べようと思った」「農作業をすることはあまりないので、いい経験ができた。自分でも栽培してみたい」と笑顔で話していました。



収穫したトウモロコシをコンテナに積む学生



収穫する学生



学生に収穫方法を説明する奥名さん

地域活性化に向けた地域貢献活動に取り組んでいます。

～くにびき地区本部の取り組み～



くにびき青年連盟が食農教育 園児にちやぐりん寄贈

くにびき青年連盟（上山根有史委員長・100名）は7月21日、育英北幼稚園つき組（年長5歳児クラス）の園児28名に、食農教育を進める子ども雑誌『ちやぐりん』を寄贈しました。

同連盟は、農業や食に興味を持つきっかけにしておらうと『ちやぐりん』の寄贈を実施。同園とは例年、田植えなどを通じて、農業の魅力や食の大切さを体感してもらっていましたが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響により予定していた田植えは中止となりました。

当日は、上山根委員長が同園を訪問し、『ちやぐりん』8月号を坪内朋子園長に手渡しました。

上山根委員長は「活動を通じて、農業に少しでも興味や関心を持ってもらえたらうれしい。稲刈りをみんなのできることを願っている」と話しました。



ちやぐりんを寄贈する上山根委員長(右)

JAしまね女性部が米寄贈 くにびき女性部も475kg の玄米で支援

JAしまね女性部は、新型コロナウイルス感染症拡大により、経済的影響を受けた学生などに米を寄贈する支援活動を実施しました。各地区本部の女性部から集まった3,703kgの玄米は、島根大学や島根県立大学、こども食堂へ寄贈しました。

くにびき女性部（中島和子部長）も支援活動の趣旨に賛同し、各支部やグループに呼びかけたところ、7月6日から8日にかけて、475kgの玄米が持ち寄られました。

中島部長は「多くの玄米が持ち寄せられ、改めて女性部の結束力を感じた。まだまだ苦しい状況が続くことが予想されるが、今後も必要に応じて協力していきたい」と話しました。

くにびき女性部では、今回の支援活動のほか、手作りマスクをフードバンクに寄贈するなど、積極的に支援活動に取り組んでいます。



積極的に支援活動に取り組む女性部

大興産業株式会社がお届けする～人気メニュー紹介～

今月号では大興産業株式会社より、JA全農とフレッシュミズ（JA全国女性協議会）が開発した万能調味酢の「ほめられ酢」を使い、夏にぴったりな「ゴーヤのきんぴら」をご紹介します。



ゴーヤのきんぴら

夏野菜のゴーヤはサッと湯通しすれば、苦みもほとんど感じません！お弁当のおかずにも使えますよ！ズッキーニやにんじんに置き換えても美味しく仕上がります。

【材料（4～6人分）】

ゴーヤ…1/2本(120g) ほめられ酢…大さじ3
ちくわ……………2本 しょうゆ……大さじ1 A
ゴマ油……………大さじ1
いり白ごま……………適宜

【作り方】

- ① ゴーヤの種とワタを取り、半分に切って薄切りにし、熱湯でさっと茹で、水気を絞る。ちくわは斜め薄切りにする。
- ② フライパンにゴマ油を入れて熱し、ゴーヤを炒めて軽く焼き色がついたらちくわを入れて炒める。
- ③ ②を弱火にし、Aを加えて汁気を飛ばすように手早く炒め、器に盛り、いり白ごまをふるって完成。

【ほめられ酢の特徴】

国産原料にこだわり、柔らかい酸味とさわやかな後味でお子様も食べやすく安心！1本あれば、炒め物、煮物、お漬物など幅広く使えます。

お近くのAコープでお買い求めください。



パートナーセンターくにびき 無料相談・登録会開催

対象者：松江市在住で真剣に結婚を考えている独身男女（家族、友人相談可）
開催日及び開催場所

日付	時間	場所
9月9日（水）	10：00～12：00（1人20分程度）	乃木支店
10月7日（水）	10：00～12：00（1人20分程度）	鹿島支店
11月11日（水）	10：00～12：00（1人20分程度）	島根支店
11月11日（水）	14：00～16：00（1人20分程度）	八束支店

●参加を希望される場合は予約が必要です。

※日程が変更あるいは中止になる場合がございますので、必ず事前にお問い合わせください。

※ご希望の方との結婚やお見合いをお約束するものではありません。

パートナーセンターくにびき TEL：36-5005 携帯：090-3637-0071
営業時間：毎週月曜～金曜 8:30～17:00 ※12/27～1/5除く

9月くにびき地区本部 各種相談会カレンダー（税・ローン）

※各相談とも無料でお受けしています。

日	曜日	相談会内容	場所・時間
3	木	税務相談会	川津支店（TEL：23-2424）10:00～12:00
4	金	税務相談会	東出雲支店（TEL：52-2022）10:00～12:00

○くにびき統括支店ローン営業センターでは、土曜日（10：00～15：00）に休日住宅ローン相談を実施しています。要予約。

※9月の土曜営業日は12日、26日です。

◆お問い合わせは

※税務相談会のご予約は、開催日2日前までをお願いします。予約先：開催会場となる支店

☎0120-988-380

9月 ふれあい訪問日

9月16日(水)・17日(木)

CrossWord クロスワード パズル Puzzle

二重マスの文字をA～Dの順に並べて
できる言葉は何でしょうか？

出題 ● ニコリ

1	5	8		14		21
		D				
	6			15	18	
2			12		19	
					A	
		9		16		
3	7		13		20	
4		10		17		
		11				B

答え

A	B	C	D
---	---	---	---

・お預かりした個人情報は、プレゼントの抽選・発送以外の目的で
利用することはありません。

タテのカギ

- ②俗に赤トンボと呼ばれるトンボ
- ⑤——半島は青森県北西部に位置
します
- ⑦ギターやバイオリンに張ります
- ⑧袋に「おてもと」と書かれてい
る物もあります
- ⑩ホークはタカ、イーグルは——
- ⑫謙遜して「せかれ」と言う人も
います
- ⑭算数の文章題を解くために立て
ることも
- ⑯ギンナンは殻を割り、——をむ
いて使います
- ⑰猫は出したり引っ込めたりでき
ます
- ⑱人体——使って内臓の配置を学
んだ
- ⑲流し台や食器などに使われるさ
びにくい合金

ヨコのカギ

- ①唱歌『虫のこえ』ではガチャガ
チャと鳴いています
- ②写真を並べて入れたり、貼った
り
- ③きつねうどんのメインの具
- ④厳しさの度合いを緩めること。
規制——
- ⑥すしに添えるショウガの酢漬け
- ⑨涼しくなると不快——も下がり
ます
- ⑪ぶどう酒の一つ。ブドウの実の
皮を取り除いて造ります
- ⑬秋桜とも呼ばれる花
- ⑮郵便物に料金分を貼り付けます
- ⑰イチカバチかの——に出た
- ⑲うどんやそば、ビーフンなどの
こと



応募要項

- 応募方法
ハガキに、答え、住所、氏名、年齢、電話番
号、本誌に関するご意見・感想を記入して、
下記宛先にお送りください。
- 賞品
正解者の中から抽選で40名（J Aしまね全
体）の方に「J A商品券」をお贈りします。
- 当選者発表
賞品の発送をもってかえさせていただきます。
- 宛先・締切
〒690-0823 松江市西川津町1635-1
J Aしまね くにびぎ地区本部 総務課 「クイズ」係
2020年9月4日（金）（当日消印有効）

◆先月号の答え◆

「モウシヨビ」

ハ	ナ	ビ	ス	モ	ウ
サ	ラ	ダ	ス	シ	ク
サ	ケ	イ	ブ	ク	ロ
ン	シ	ン	モ	ン	ガ
シ	ナ	モ	ン	ジ	ミ
ヨ	カ	シ	ド	リ	
ウ	マ	レ	ウ	キ	ワ

川柳の広場

最優秀賞

着替え詰め笑いも連れて孫が来る
雲南市 小林多美子様

優秀賞

百姓で 生きる詩あり 老いのペン
出雲市 小白金房子様

反対を した嫁に今 介護受け
浜田市 岩本 静代様

髪の毛も 歩く姿も 母に似る
出雲市 佐藤 勝枝様

佳作

種初に 今年の出来を 託します
出雲市 永見 卓様

ボランテア なつかし今は 受ける身に
隠岐の島 番家あきの様

朝茶一杯 よばれて今日の 調子良さ
出雲市 南場 良枝様

Aーに 話し掛けられ 会釈する
出雲市 三原 捷子様

禍は 試験残して 去っていく
津和野町 田中とよし様

「家の光」では俳句・川柳・詩・短歌を毎月募集
しています。こちらへも是非ご応募ください！
「家の光」9月号 定価922円
・免疫力アップの生活術
・もしも…に備える災害食レシピ
など、読みどころ満載です。
ご購入は、お近くのJAへお問合せください。

JAしまねびよりは、皆様からの俳句・川柳を募集しています。優秀句（最優秀賞1句、優秀句3句、佳作5句）

応募方法

俳句または川柳、住所、氏名、年齢、電話番号を記入のうえ、ハガキ、FAX、
Eメールでご応募ください。
※1回のご応募につきお一人様3句までご応募いただけます。
※応募作品は自作で未発表のものに限ります。
※応募作品の一切の権利は、JAしまねに帰属するものとします。
※受賞作品は地域名、氏名（または雅号）を掲載します。

あて先

〒690-0887 松江市殿町19-1
JAしまね ふれあい福祉課
「俳句の広場係」または「川柳の広場係」
FAX：0852-67-7708
Eメール：fureai.hon@ja-shimane.gr.jp

最優秀賞、優秀賞の4名様には「JA商品券1,000円分」をお贈りします。



ハチを見かけたら巣づくり警報!

無料調査

ハチ
駆除

近寄らず、触らず!!

ハチの駆除はプロにお任せください。

ハチの駆除をご希望の方は
最寄りのJAまでご連絡ください。
JALしまね取扱業者(株)コダマサイエンスの
地区担当者が訪問させていただきます。



取扱業者

(公社)日本しるあり対策協会企業登録(鳥取県002・鳥取県002)

Kodama 株式会社 コダマサイエンス

■本社 / 鳥取県松江市西塚島2-8-23 ☎0852-43-0852



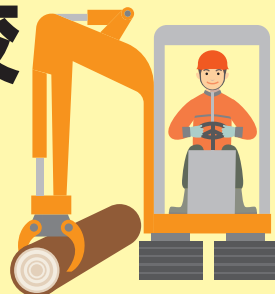
お問い合わせ先

最寄りのJAにお問い合わせください

く に び き地区本部	0852-36-9270	斐 川地区本部	0853-73-9622
や す ぎ地区本部	0854-28-7200	石 見 銀 山地区本部	0854-84-9071
隠 岐地区本部	08512-2-1133	島 根 お お ち地区本部	0855-95-3601
隠岐どうぜん地区本部	08514-7-8005	い わ み 中 央地区本部	0855-22-8823
雲 南地区本部	0854-42-9133	西 い わ み地区本部	0856-23-0914
出 雲地区本部	0853-21-6083		



島根県立農林大学校 学生募集



令和3年度入学試験実施のお知らせ

令和3年4月入学

農 業 科

有機農業・野菜・
花き・果樹・肉用牛

短期養成コース

修業年限 / 2年

修業年限 / 1年

募集人員 / 45名



林 業 科

修業年限 / 2年

募集人員 / 20名



	試 験 日	出 願 期 間	試験会場
学校長推薦	令和2年10月28日(水)	令和2年9月30日(水)~10月14日(水)	島根県立 農林大学校 (大田市)
一般前期	令和3年2月16日(火)	令和3年1月8日(金)~1月28日(木)	
一般後期	令和3年3月22日(月)	令和3年2月26日(金)~3月10日(水)	
地域推薦	随時	令和2年9月30日(水)~令和3年3月10日(水)	
自己推薦	令和2年10月28日(水)及び29日(木)	令和2年9月30日(水)~10月14日(水)	

詳しくは農林大学校のホームページ、または農林大学校 (☎0854-85-7012) まで。

謹んで豪雨災害のお見舞いを申し上げます

この度の大雨により被害を受けられました皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

島根県農業協同組合 代表理事組合長 石川 寿樹

島根産まれの
食材レシピ

しまねうれしび



島根県家の光講師 飯塚生美子先生

海老と茄子のフレッシュトマトグラタン



●材料（4人分）

海老……………	8尾	顆粒コンソメ……………	小さじ2 (固形コンソメの場合1個)
ワイン……………	大きじ1	小麦粉……………	大きじ1
茄子……………	1本	牛乳……………	100cc
玉ねぎ……………	1/2玉	塩こしょう……………	少々
しめじ……………	1袋	ピザ用チーズ……………	40g
ベーコン……………	2枚	バジル(又はパセリ)……………	適量
ミニトマト……………	20個(約300g)		
バター……………	10g		

●作り方

- ①海老は殻と背ワタを取り除いて半分に切り、ワインをもみ込む。
- ②茄子は一口大の乱切りにし、塩水に浸けてアク抜きして、水気をきっておく。
- ③玉ねぎは細切りに、しめじは根元を切り落として小房にほぐし、ミニトマトはヘタの部分を取り落としておく。
- ④ベーコンは1cm幅に切る。
- ⑤フライパンにバターとベーコンを入れて炒める。
- ⑥次に玉ねぎ、茄子、しめじの順に加えて炒め、コンソメと塩こしょうで味をつけ、一度火を止める。
- ⑦⑥の野菜に小麦粉をふりかけて混ぜ合わせ、粉っぽさがなくなったら牛乳を加えてよく混ぜる。
- ⑧再び火をつけて、トロミがつくまで木べらで混ぜる。
- ⑨①の海老とミニトマトを加え、海老に火が通ったら耐熱容器にいれ、ピザ用チーズを散らしてオーブントースターで6～7分、チーズに焼き色がつくまで焼く。
- ⑩バジルを飾る。

・お使いのトースターによって焼き加減が異なりますので、様子を見ながら調整してください。
・トマトは加熱によってリコピンの吸収率が高くなり、うま味成分も凝縮され、酸味もやわらぎます。

アレンジ

- ・野菜はズッキーニ、南瓜、じゃが芋、パプリカ等、彩りよく組み合わせてください。
- ・海老をゆで卵やウィンナーに変えても美味しく出来ます。
- ・牛乳を豆乳に変えてもOK!

夏野菜のテリーヌ



・アガーは海藻から作られた寒天入りのゼリーの素です。夏場でも常温では溶け出しません。ダマになりやすいので、液体を混ぜながら少しずつ加え、均一に混ぜてから加熱します。

●材料（牛乳1ℓパック1本分）

オクラ……………	8本	A	アガー……………	2袋(10g) (又はゼラチン)
パプリカ(赤)……………	1/2個		固形コンソメ……………	1個
ズッキーニ(黄)……………	1/2本	B	水……………	500cc
アスパラ……………	6本		ケチャップ……………	大きじ1
カニカマ……………	10本	マヨネーズ……………	大きじ1	
アボカド……………	1個	イタリアンパセリ……………	適量	
		牛乳パック……………	2個	

●作り方

- ①オクラはヘタと先端を切り取り、塩でもんで産毛を取る。
- ②パプリカ、ズッキーニ、アボカドは5mm～1cm角の棒状に切る。
- ③アスパラは牛乳パックに入る長さに切る。
- ④鍋にAを入れ、よく混ぜてから火にかけて沸騰させ、オクラ、パプリカ、ズッキーニをいれ、2分茹でる。
- ⑤④の鍋にアスパラを最後に加え、1分茹で火を止める。
- ⑥牛乳パックの上部注ぎ口部分と横1面辺を切り取ったものを2個作り、重ね合わせて、つなぎ目をテープでしっかりとめて長方形の箱を作る。
- ⑦⑥の型にオクラ、パプリカ、ズッキーニ、アスパラ、カニカマ、アボカドの順に並べて重ね入れ、煮汁を注ぎ表面にラップをかぶせる。
- ⑧粗熱が取れたら冷蔵庫でしっかりと冷やし固める。
- ⑨牛乳パックから出して、好みの大きさに切り分ける。
- ⑩皿に盛り、Bを混ぜ合わせたソースとイタリアンパセリを添える。

アレンジ

- ・ゼラチンで固める時は、野菜を先の下茹でし、ゼラチン液は別に作って流し入れます。
- ・断面を想像しながら色とりどりの野菜を寄せて、夏の食卓を涼やかに演出してみましょう。
- ・ハムやチーズ、うずら卵、ササミ、スモークサーモン、枝豆、コーン、茄子、胡瓜、長芋、ブロッコリーなどを使っても出来ます。

理事会情報（6月30日開催）

【協議事項】

- | | |
|---|--|
| ①令和2年度補助事業の実施について（新型コロナウイルス感染症にかかる緊急事業） | ⑤組合と理事との取引（契約）の承認について |
| ②第6事業年度業務報告書について | ⑥系統団体への常勤役員への就任について |
| ③ディスクロージャー誌2020について | ⑦確定給付企業年金規約の一部改正について |
| ④やすぎ地区本部自動車課職員の不祥事にかかる再発防止策の策定ならびに島根県への報告について | ⑧地区本部職員就業規則の一部改正について |
| | ⑨理事の個別役員報酬額の決定について |
| | ⑩執行役員の個別報酬額の決定について |
| | ⑪重要な就業規則制裁条項の適用について
(紙幅の関係上、報告事項は省略いたします) |

【編集後記】コロナ感染拡大防止対策を考慮した今年の総代会。例年は満席の会場も今年は書面での決議を推奨し本人出席が少ない上、席は間隔がとってあり、会場は閑散とした様子でした。しかし議案については例年通り熱い質疑応答があり、私はその熱意に胸が熱くなりました。皆様、お疲れ様でした。(木村)



JAしまね
公式ホームページ
JAしまね



2020年8月17日発行(月1回発行)
編集/JAしまね ふれあい福祉課・くまびき地区本部
発行/島根県農業協同組合 くまびき地区本部 総務課
〒690-0823 松江市西川津町1-635-1 TEL.0852-55-3000 FAX.0852-32-6670
メール:office@affairs.kun@ja-shimane.or.jp